

2018年10月31日

新日鐵住金ソリューションズ(株)

2019年3月期第2四半期 決算説明会 主要Q&A

Q：売上高及び営業利益の下期見通しについて

A：下期の売上高は1,334億円と当初公表値から+44億円増額（対前年では+57億円）しました。上期末受注残+144億円増の内、今下期の売上に寄与するのは約90億円。昨年は下期受注下期売上が高水準であったこと、当期は一部受注が前倒しで入っていることなどを勘案しています。また、この増収見通しには上期に受注した大型プロダクト販売30億円（某官公庁向けプライムベンダーからのソフトウェア・ハードウェア総合調達要請案件）も含んでいます。売上総利益は261億円（対当初+1億円）、売上高総利益率はプロダクト販売増を織込み、当初計画に対し-0.6%下げて19.6%としています。

なお、昨年度・今年度上下別の某官公庁向け大型プロダクト販売額とその影響を除く売上高総利益率は次の通りです。

2018年3月期 上期実績 60億円 21.2% /下期実績 一億円 19.9%

2019年3月期 上期実績 60億円 20.8% /下期見通し 30億円 20.0%

販管費は、上期からの期ズレ及び商号変更等を考慮し対当初+1億円の134億円。

結果、営業利益は127億円、経常利益は130億円と、ともに当初下期計画通りです。

Q：新日鐵住金向け売上高について教えてほしい。

A：2019年3月期は、新日鐵住金の2020年中期経営計画達成に向けたIT投資が活発になる見通しから、当初は上期240億円（対前年+21億円）、下期235億円（対前年-2億円）、通期で475億円を計画しましたが、この上期実績246億円（対計画+6億円）と足元の活動水準を勘案し、通期の売上見通しを過去最高の485億円（対前年+28億円、対当初+10億円）と修正致しました。

鉄鋼ソリューション事業としては、新日鐵住金の高度IT投資に加え、グループ事業体制強化のニーズもあり、当面は高水準の活動が継続するものと考えています。

Q：金融の見通しについて

A：上期は、メガバンク統合案件のピークアウトによる反動減がありました。この下期は、新規案件の立ち上げなども見込み、昨年下期（161億円）並みの水準は実行できると考えています。

Q：I o Xソリューション事業の状況について

A：2018年3月期決算説明会で事例として紹介しました、新日鐵住金向け「安全見守り」ソリューションの利用者は順調に増加しています。また、今夏の酷暑の影響もあり、熱中症予防等に向けた対策として注目度が上がり、引き合いが増えています。今年度の売上計画15億円に對して順調に進捗しています。

以上